

令和2年斜里町議会定例会 6月定例会議 全員協議会会議録

令和2年6月25日（木曜日）

開会 午後4時20分

閉会 午後4時59分

◇ エコクリーンセンターの課題への対応状況について ◇

●金盛議長 会議規則第125条により、全員協議会を開きます。案件は、エコクリーンセンターの課題への対応状況について、の1件です。内容の説明を受けます。鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事（エコクリーンセンターの課題への対応状況について 内容説明記載省略）

●金盛議長 説明が終わりましたので、質疑を受けます。ご質疑ございませんか。木村議員。

●木村議員 いろいろ聞きたい点がありますが、大きな枠の6ページ、斜里郡三町の取り組みについて確認をしたいと思います。このごみ処理場を作る時に、地域計画を策定しなければならないと地域計画は順次作っていますし、地域計画そのものは5年ごとに計画変更する。その5年ごとの計画変更ですが、アバウトな計画というのは紛れもない事実です。最終的には三町で広域処理をしたいという目的で地域計画を作ったのですが、それぞれの処理方式が違う。

6ページの最終下段の枠組みを見ると、少し可能性が出てきたかと。今までの地域計画では、清里は大きく焼却を直したと明確に書いてあり、直した段階であと30年ぐらい保つと書いています。無理だとは思いましたが、最終処分場の仕様を見ると、直しても広域処理をやることによりコストの削減が期待できることを含めると、ぜひ三町の枠組みでどういう処理方式がベストなのか、絶対斜里町でなければ駄目という視点を少し横に置き、真摯に三町で話し合う場を持つべきではないかと、大きな枠組みの中で思いましたが、特に参事だけではなく理事者側の考え方や決意をお聞かせいただければと思います。

●金盛議長 北副町長。

●北副町長 木村議員がおっしゃる部分、よく分かります。この地域計画、循環型社会形成推進地域計画ですが、いわば循環型交付金を得るための計画と割り切っています。これは斜里町だけではなく、三町同じ考えでやっていると思いますが、最終的には理由が立つように一つの所という目標を作りながらも、現状に合わせた逃げをしている状況です。議員がおっしゃるとおり、今まではなかなか歩調が合わなかったのが事実だと思います。その中で事務レベルで問いかけを早速しているところでして、その中で可能性があれば、本格的に協議を呼びかけていくべきだと思います。そのためには斜里町でも、処理方式を一

致させる必要があると思いますので、それも含めて検討しなければ、それを抜きにして結論づける訳にはならないと思います。そういう難しい要素がありながらも、理想的には補助金も入れながら、三町の足並みも揃えるのが理想なので、可能性を追求してまいりたいと思います。

●金盛議長 木村議員。

●木村議員 ごみ処理は処理方式を統一しないと広域処理にはなりませんので、処理方式の統一と、場所についても我が町でという視点を外してどこが一番いいのか、三町で真摯に話し合えばいいと思います。特に7ページ、非常にお金が掛かります。これはトップです。病院がいつも槍玉に上がりますが、ごみ処理場も大きなお金を費やしている。1億数千万円、コスト削減したら10年間で10数億円です。ぜひ広域処理でコストを下げっていくことは必要だと。高温高压処理を続けると本当にどうなのか、常に心配しています。

新しい方式なので、今のところ使用年数は、もう6年間経っていますので、これから窯にしてもボイラーにしても、どういう修理費が掛かってくるのか。これは大きな選択になるので、これから未知数の、今までどこのメーカーも道内で2社しか使っていないので、どのくらい持つのかは誰も予測が立てられないはずです。

いつか大きな費用が掛かるとなった時に、費用を掛けてこのままずっと続けていく形になると、本当にどうなるのだろうかという心配が先に立ちます。それよりは方向転換をして、安全性の高い、全国の99%が焼却方式ですから、実績は豊富にあるわけです。安定性なり将来を見越して計算ができる方式の方がいいのではないかと思います。今の処理方式を選択するのは不安定要素がありすぎるとは思います、そこについて理事者はがどう考えているかお聞かせいただきたい。

●金盛議長 北副町長。

●北副町長 掛かる経費、更にはその生成物の売却先も含めて、将来的にどうかは課題に最初に挙げているとおりです。より問題なのは、この前の議会協議の中でも明らかになったと思います。それについては率直に認めなければならないと思います。ただ今回、2月に越川地域に理解を求めるために、最初にご挨拶を申し上げて検討に入らせて頂きますと話をさせて頂いておりますが、先ほどの三町の中で場所の話もありましたが、一番難しいのは場所の問題だと思います。ここにかかってくると感じているので、そこと合わせて今後どうやって詰めようかと、議会の皆さまとも協議しながら、ご協力を仰ぎながら良い方向になればと思っています。

●金盛議長 他ありませんか。宮内議員。

●宮内議員 ごみ処理は、今のご意見がありましたように、循環型社会形成に資する交付金を活用し、地域計画に基づいてごみ処理計画を作ることです。現在、課題があることは、参事が説明されたようにさまざまありますが、現在の処理方式が国の交付金制度の趣旨に則って考えた場合にどうなのかという観点から見ると、どのように考えていますか。

●金盛議長 鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事 循環型交付金が高温高压処理でしか貰えないわけではなく、焼却方式でも、網走市では破碎埋め立て方式を採用していますが、それでも循環型交付金を貰えます。循環型交付金を貰うから処理方式を決めなくてはならないものではないと考えています。

●金盛議長 木村議員。

●木村議員 高温高压イコール循環型は、今、参事から説明されたとおりです。白老町は農林水産省の補助金です。環境省ではないのです。農林水産省の補助金で2分の1ある。環境省は金が無いので、うちの場合は約3分の1です。循環型交付金。だから総定量が違いますし、必ずしも高温高压だから環境省イコール循環型とはなっていないと思いますが、それについてはいかがでしょうか。

●金盛議長 鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事 木村議員がおっしゃったとおりだと考えています。

●金盛議長 宮内議員。

●宮内議員 高温高压処理を選択した経緯を考えますと、高温高压処理方式は資源の循環により寄与する処理方法であろうということで、選択されたと思いますが、この処理方式を決定する直前に実は高温高压処理でできた生成物は、他の条件の中に記載されていますが、RDFという平成17年に既に環境省がこの方式は駄目だと。資源としての利用がスムーズではない、さまざまなトラブルが発生して燃焼事故や爆発事故など、各種のRDF製造を行いごみ処理を行う処理場で事故が多発している現状を踏まえ、この方式は循環型交付金の対象としない、と方針として示されたものの中に含まれるものがありました。

できた生成物は、ごみ由来の固形燃料という位置づけでした。しかし当時の行政側の説明は、新たなバイオボイラーができて十分再利用が可能ということで最終的にこの方式が選択されました。しかしダイオキシンの発生の問題、燃焼中に熱を発生させる問題など、さまざまな課題があり選択した時点で再利用が十分可能だという状況には至りませんでした。だから検証もしながら、先ほど木村議員もご発言されたように、コスト的に考えると処理方式そのものの思い切った見直しが必要だと考えますがどうですか。

●金盛議長 鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事 ボイラーができたので生成物の利用については大丈夫ということで方向性を決定づけました。それが今は後継機種が全く無い状況は、当初は想定するべきだったのか反省はするべきだと思います。一番のネックが、そういった形の方向性の決定に結び付きましたが、結局その部分が未だにネックになり続けており、今、説明した生成物の課題でこの処理方式を続けていく以上、この課題から逃れられないと考えています。だからといって今すぐ変えるか、というと費用が莫大に掛かりますので、昨日説明した時も、一度に変えるのなら25億円以上掛かると思います。それは逆に厳しいと思っています。

す。

●金盛議長 宮内議員。

●宮内議員 費用の問題は、処理方式を大きく変えることは、多額のインシヤルコストが必要です。しかし、ランニングコストを見ると、資料にもあるように、他の自治体と比較しても多額な物が掛かっています、一人当たりの。7ページの資料のとおりであろうと思いますが、ごみ1トン当たりで考えても、一人当たりで考えてもランニングコストが掛かっているわけです。

地域計画が斜里町だけのものではありませんので、清里町、小清水町との協議を踏まえての話になりますが、組織そのものを変換するという腹構えを持ち、二町との協議に当たる必要があると考えますがいかがですか。

●金盛議長 鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事 資料7ページの部分、費用が掛かっている形で説明していますが、斜里町特有の面積が広いこと、そして回収品目が多いことにより、費用が上がる部分があるかと。処理方式の部分は非常に大きいと考えておりますので、そのための変更の検討も進めていきたいと考えています。

●金盛議長 木村議員。

●木村議員 確かに面積は大きいですが、以久科処分場のときと比較しなければなりません。以久科処分場のときは、ごみ処理費用合計が1億7千万円くらいでした。この表にあります3億円近く掛かっています。これはずっとです、当初から。斜里町が、ごみ処理場ができたから大きくなった訳ではありません、面積が。その比較がまず。

もう一つは、先ほど25億円と言われました。エコクリーンセンター全体の事業費は28億円です。堆肥化施設と最終処分場を入れて。25億円がどこから出てきたのか分かりませんが、その部分をもう少し精査しながら、広域になると違ってくるのでしょうか、そういう物をしっかりやっていく必要があるのではないかと。25億円は全く新しく全部最終処分場を作り直す想定で25億円ですか。

●金盛議長 鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事 25億円の内訳ですが、最終処分場と水質処理施設で約10億円、標茶町が8トン処理の焼却施設で約15億円掛かっているの、最低でも25億円掛かるのかなと考えているところです。

●金盛議長 木村議員。

●木村議員 ちなみに斜里町の最終処分場の年限はいつまでですか？

●金盛議長 鳥居廃棄物担当参事。

●鳥居廃棄物担当参事 令和9年3月頃と考えております。

●金盛議長 他、ありませんか。無ければよろしいですか。以上をもちまして、エコクリーンセンターの課題への対応状況について、の質疑を終了いたします。

以上で、本日の全員協議会を閉じます。ご苦労さまでした。

午後4時59分